

## 「中国地域在住者のコロナ禍における観光意識に関する調査」について

一般社団法人中国経済連合会（会長 清水希茂）は、公益社団法人日本観光振興協会中国支部（支部長 佐々木茂喜）と共同で、この度、中国地域在住者を対象に実施した標記調査結果をとりまとめましたので、お知らせします。

本調査では、コロナ禍による観光に対する意識（混雑回避意向、訪問先意向等）、全国旅行支援等のキャンペーン利用状況、平日旅行意向、観光客受入意向などについて、アンケート調査により把握・分析し、観光振興に向けた基礎資料となるようとりまとめております。

### 1. アンケート調査手法・サンプル数等

- ・実施日 2023年1月17日～20日
- ・調査手法 インターネットにより実施
- ・サンプル数 中国地域 1,000件、男女同数  
(各県 200件：20代、30代、40代、50代、60代以上の5階層 40サンプルずつ)

### 2. 主な調査結果

- 旅行の際に重視・意識する項目としては、「食事は地元のもの食べたい」、「混雑しているところには行きたくない」が8割、「海外旅行より国内旅行を楽しみたい」が7割超と高いニーズがある一方、旅先での交流、環境配慮等のニーズは高くない。
- 1年前に実施した2021年度調査と比較（2021年度調査は「どちらかと言えば」という選択肢を設けていないことに留意が必要）すると、ほとんどの項目で「重視・意識する/しない」の傾向に大きな変化は見られない。  
変化したポイントが大きかった上位2項目は、「ガイドさんの話を聞きながら観光地を巡りたい」（重視・意識する人：25.6%→18.7%に減少）、「海外旅行より国内旅行を楽しみたい」（重視・意識する人：70.7%→75.6%に増加）。
- 「コロナ禍では旅行していない」と回答した人が49.9%と半数を占めた。年代別では、20代の若年層を中心にキャンペーン等の利用割合が高い一方、50代以上の世代では「コロナ禍で旅行していない」と回答した人が半数以上となっている。
- 7割以上が平日旅行の意向がある。特に、60代以上にその傾向が強い。平日旅行意向の理由については、2021年度調査と比較して「混雑回避」が減少し、「お得に旅行できる」が増加した。

- 自県を訪問する観光客を歓迎する意向が 63.8%と、2021 年度調査 (43.7%) よりも高まっている。
- ワーケーションを体験した人は 1.0%とごく少数であり、「できない」が約半数、未体験で体験希望も無い人が 35%と、全体の約 85%がネガティブな回答となっている。
- 自県の観光振興に向けた自由意見では、1,000 件の回答のうち、最も多かったのが観光地の情報発信を求める意見で、2021 年度調査と比較しても増加している。一方、2 番目に多かった旅行補助・キャンペーンや衛生管理・感染対策を望む意見は 2021 年度調査に比べて減少している。3 番目に多かったのは体験型コンテンツの充実。

### 3. まとめ

#### ○旅行の際に重視する項目は「地元の食事」と「混雑回避」

- ・旅行の際に重視・意識する項目として「食事は地元のを食べたい」、「混雑しているところには行きたくない」、「海外旅行より国内旅行を楽しみたい」が高い比率となっていることや地域の観光客歓迎意向が増加していることを踏まえると、観光業の回復に向けては、「地産地消」や「自然・体験」等をキーワードに地域全体で対応することが重要である。

#### ○コロナ禍で旅行しなかった層が半数であり、反動増に期待

- ・2021 年度調査と比較して、自県の観光振興に向けた自由意見として「補助・キャンペーン」が減少していることを踏まえると、今後は以前よりも補助やキャンペーンに頼らなくても、これまでの反動で旅行者が増加することが期待できることから、混雑回避策を講じつつ、自由意見で最も件数の多かった観光地の情報発信をより強化し、増加する旅行需要を着実に取り込むことが必要である。

#### ○平日旅行意向の高まりを活用し、観光客数の平準化へ

- ・7 割が平日旅行意向がある中、その理由として平日の割安感に期待する比率が高まっていることから、平日限定割引等、平日需要を高める方策により観光客数の平準化が期待できる。

以 上

- ・本調査結果は、当連合会ホームページに掲載しています。  
URL <http://www.chugokukeiren.jp> (中国経済連合会トップー提言・要望・報告)
- ・調査内容に関するご質問等ございましたら、下記までご連絡ください。  
中国経済連合会 (担当：島末 TEL：082-242-4511 FAX：082-245-8305)